

丹波篠山市の オーガニックビレッジへの挑戦



丹波篠山



令和2年度丹波篠山市景観写真コンクール最優秀賞受賞写真 「黒豆の収穫」

兵庫県 丹波篠山市長 酒井 隆明

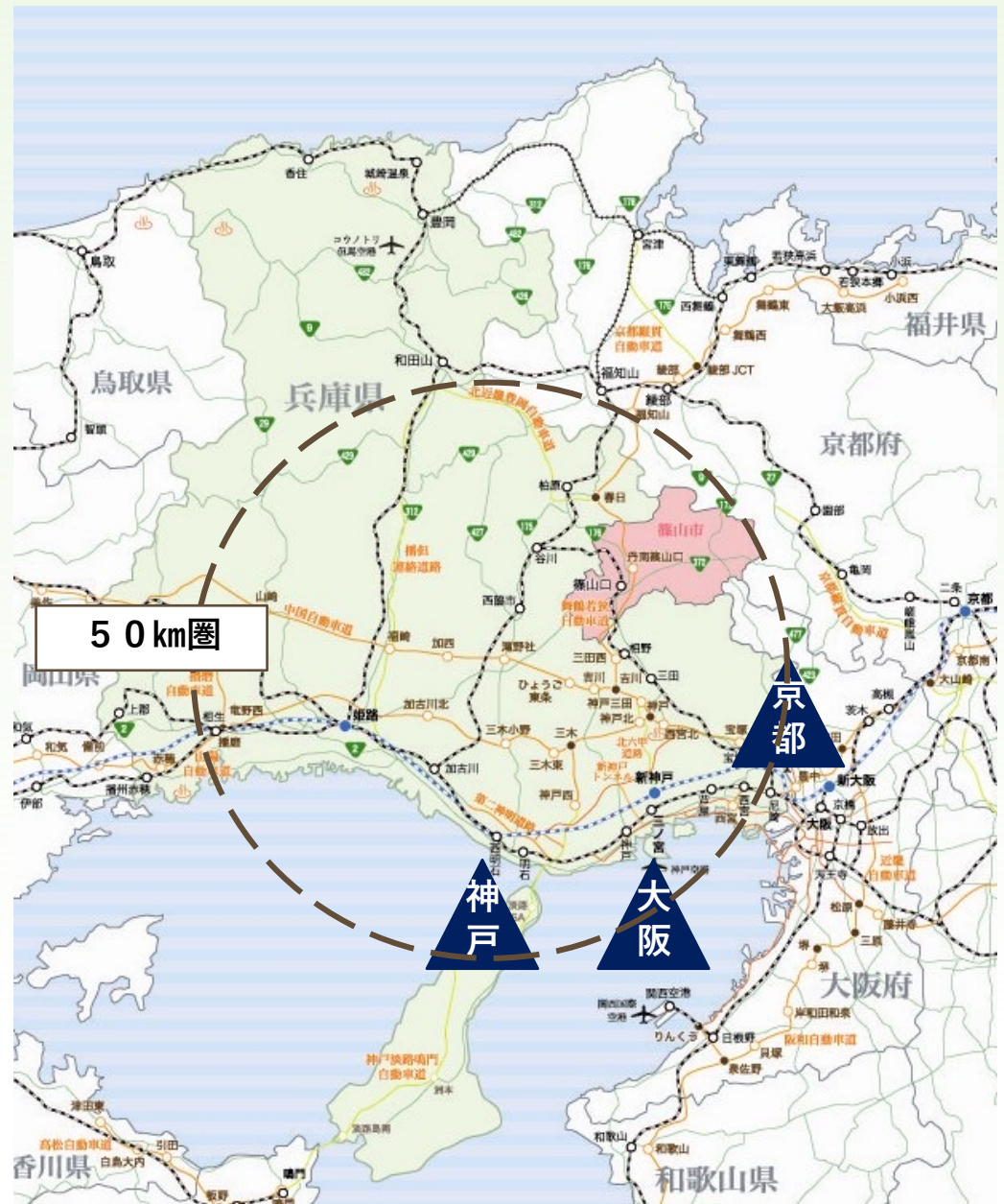
★東西約30km南北約25km
(377.59km²)

★兵庫県の中東部で
大阪・京都府との境

★京阪神から50km圏内

★JR篠山口⇔JR大阪
(約1時間)

★丹南篠山口IC⇔大阪
(約50分)



「小京都」「都市部から1時間でこれほどの原風景が残っているのは、奇跡的です」（東京大学 西村幸夫先生）



丹波篠山

篠山城跡



丹波篠山

重要伝統的建造物群保存地区（城下町）



丹波篠山

波々伯部神社祭礼



丹波篠山

丹波篠山デカンショ祭 (平成27年 日本遺産認定)



丹波篠山

日本六古窯 丹波焼（平成29年 日本遺産認定）



丹波篠山

丹波篠山黒大豆



米・山の芋・丹波大納言小豆



丹波篠山ぼたん鍋



丹波栗

丹波の森宣言（昭和63年）



貝原 俊民
前兵庫県知事



河合 雅雄
世界のサル博士
(名誉市民)

丹波の森宣言

丹波の自然と文化は、現在及び将来にわたる住民共有の財産であって、これを維持発展させることは私たちに課せられた重大な責務です。

今、私たちはこの責務を強く自覚し、お互いに力を合わせ、自然や文化を大切にしながら、これらを生かした「丹波の森」づくりを次のように進めることを宣言します。

1. 丹波の健全な発展をそこなうような自然破壊は行わず、森を大切に守り育てます
2. 丹波の自然景観を大切に、花と緑の美しい地域づくりを進めます
3. 丹波の文化景観及び歴史的遺産を大切に、個性豊かな地域文化を育てます
4. 丹波の素朴さと人情を大切に、安らぎと活力に満ちた地域づくりを進めます

昭和63年9月1日



丹波篠山

丹波篠山の魅力を生かすまちづくり

農

- ◆ 農都宣言（H21）
- ◆ 農都創造条例（H26）
 - ◆ ふるさとの川・水路づくり指（H25）
 - ◆ ふるさとの森づくり条例(H26)

美しい 丹波篠山

- ◆ 景観計画（H23）
- ◆ まちづくり条例改正（H23）
- ◆ 屋外広告物条例（H26）
- ◆ 土地利用基本条例（H26）

文化の 香り

- ◆ 重要伝統的建造物群保存地区（2地区）
- ◆ 丹波焼、春日能、祭礼
- ◆ 史跡篠山城跡、八上城跡、車塚古墳

自然

- ◆ 生物多様性ささやま戦略（H25）
- ◆ 鳥獣害対策と共生の道

農都宣言（平成21年）

丹波篠山市は、食の安全と安心を未来にわたって育み、篠山特有の自然を生かし、農業の新たな先駆者として更なる振興を実現するため、

- 1 「いのち」を支える「農」を未来に育みます。
- 1 「農」を支える「人・土・水」を大切に育みます。
- 1 「丹波篠山」を支える「特産物」を育みます。

を基本理念として、「自然の気候風土に恵まれた日本一の農業の都、篠山市」をここに宣言します。



農都創造条例（平成26年施行）

- 1 多様な担い手の確保と中核を担う
農業者の育成
- 2 特産農産物の安定的な生産、品質の向上
- 3 自然環境と生物多様性に配慮した
環境保全型農業と農村づくり
- 4 農地の保全と活用



獣害対策（野生生物との共生の道）

◇ 農林水産大臣表彰受賞（平成30年）

全国モデルのサル対策

1 計画的な個体数管理

- ・保全(群れの大人メスの数を把握)と被害減の両立

2 集落主体の対策支援

- ・サルメールによる位置情報
- ・追い払い(モンキードック、花火など)
- ・電気柵の設置支援



日本農業遺産認定（令和3年）





丹波篠山

農都のめぐみ米（１）

- 1 化学窒素量・農薬使用回数を兵庫県通常栽培基準の半分以下にする
- 2 おたまじゃくしの生育を待って中干しするなど生態系への配慮
- 3 代かきや田植え時に濁水が川に流れないように防止する
- 4 稲わらや堆肥、土壌改良材などを使用する
- 5 土づくり、適期の田植え、収穫など美味しい米づくりなどの取組み



農都のめぐみ米（2）



日本一の学校給食

(令和元年 学校給食甲子園優勝)



丹波篠山



丹波篠山

農都のまほろば水路



丹波篠山

オーガニックビレッジ宣言(令和5年)



酒井 隆明

合 長

オーガニックビレッジの取組の経緯

1974(S49) 丹南町有機農業実践会

2017(H29) 丹波篠山自然派

2022(R4) 認定農業者連絡協議会懇談会での

「オーガニックビレッジ」取組みの打診

「市としてブランドイメージを向上させ、農産物を売り出していくチャンス」

「ニーズはある」「観光やふるさと納税も巻き込んだ“まちづくり”として進めたい」

有機JAS取得農家、大規模農家、新規就農者、JA、県、市が参画した丹波篠山ワクワク農都づくり協議会の設立

→ 有機農業実施計画の策定検討

多様なかたちで人×自然のかかわりを創り出し、楽しむ中で丹波篠山の自然を維持管理
=丹波篠山市が目指すオーガニックビレッジの姿

多様な有機農家 それぞれの実践（1）

丹波篠山 吉良農園の取組み

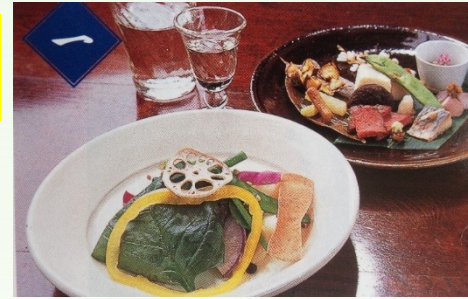
丹波篠山 吉良農園
代表 吉良 佳晃



丹波篠山

吉良農園スキーム

飲食店・シェフ
へお届け



草木灰



少量多品種栽培



刈り草の堆肥



刈り草のマルチ



協働・学びの場を提供



野菜残差のすき込み



学校給食リサイクル堆肥



ミネラル分（貝殻化石粉）

外部から投入

農園・地域資源活用

販売への工夫



シェフとのコミュニケーションをベースに
単一規格品でなく、
野草、野菜の一生、
それぞれにスポット





地域資源活用



生態系の継承





里山への接続

左上)
放置竹林と
獣がい網

中央)
ナラ枯れの
伐木



右上)
ナラ枯れ

下)
所有者が
モザイク状

多様な有機農家 それぞれの実践（2）

丹波篠山 集落丸山の取組み

NPO法人 集落丸山
代表理事 佐古田 直実



丹波篠山





多様な有機農家 それぞれの実践（3）

丹波篠山 やがて の取組み

株式会社やがて（YAGATE INC.）
代表取締役 黒瀬 啓介



環境創造型農業事業

丹波篠山リアルテラリウム構想

山からため池、圃場へと一貫して

“美しい生命”の生態系をつくる地域を創造

養蜂

ミツバチの受粉による
山林・圃場の植物の活性化

“丹波ローズ”ブランド化
有機バラ栽培

鯉の稚魚養殖

ため池直下の圃場で
鯉の稚魚養殖。

有機黒豆栽培

有機丹波栗栽培

山林整備

綺麗な水の流れを確保し、
山道整備や伐採により
新たな事業を創出。

有機米栽培

錦鯉養魚場

“農”民泊

農業でリフレッシュする施設
臨時スタッフ宿泊

町屋民泊

身も心もリフレッシュ
“リゾート”をテーマに
した民泊施設

TAMBA SASAYAMA ORGANIC

EarthColorGarden

produced by yagate inc.

丹波篠山ワクワク有機農業実施計画

丹波篠山市有機農業の将来イメージ

丹波篠山の
POINT!

本実施計画の特徴

・丹波篠山の自然や生物をまもるための農業が、市内各地で実践されている

・多様な農家が、それぞれの農業の「実践できるかたち」を確立している

「黒大豆」の有機栽培技術が関係機関、地域農業者と連携しながら確立されている

- 生産者の「丹波篠山の自然や生物をまもる」という共通した想いを理念としています。
- 多様な考え方や農法・技術が多様な生産者によって実施されているため、経営規模や経験を問わずそれぞれの生産者が「ワクワク」できる農業のかたちを選択できます。
- 丹波篠山市を代表する農産物であり「日本農業遺産」にも認定されている黒大豆、基幹作物である水稻を中心に、「伝統を次世代へつなぐ」ための取り組みを進めていきます。

数値目標

水稻の有機農業面積

	現状 (令和3年度)	目標 (令和9年度)	拡大面積	増加率
有機農業面積	13.3ha	21.7ha	8.4ha	163.2%
うち有機JAS	3.3ha	8.3ha	5.0ha	251.5%

有機農業に取り組む農業者数

	現状 (令和3年度)	目標 (令和9年度)	増加人数	備考
有機農業者数	20人	28人	8人	稲4人、黒大豆・野菜4人
うち有機JAS	8人	13人	5人	稲1人、黒大豆・野菜4人

なぜ、農薬や化学肥料を減らすのか？

なぜ、有機農業を広げるのか？



慣行農家が有機農業に取り組むための支援を

- ① 土づくり
- ② 除草
- ③ 農薬は一切駄目なのか



有機農業と慣行農家の併存は？



丹波篠山

美しい農村を未来に

- ① 多様な担い手が住む
- ② 自然環境、生物多様性を保つ
- ③ 有機農業・環境に配慮されて
農業が息づく



美しい農村を未来に

都市は人間が作り

農村は神が作った

イギリスの詩人 ウィリアム・クーパー



丹波篠山